

美容皮膚科医が語る 「お肌のエイジング対策」 施術とスキンケアの良好な関係とは

数々のお肌の悩みに、医学的観点からアプローチする美容皮膚科医。女優や著名人も絶大なる信頼をおく片桐衣理先生に、最適なエイジングケアについて語っていただきました。



PROFILE

片桐 衣理 先生

衣理クリニック表参道院長、美容皮膚科、内科医。

美容のプロをはじめ、数多くの女優やモデルが厚い信頼を寄せる。'09年に「衣理クリニック表参道 美人製造研究所」をオープン。美容医療の最先端で活躍している。

衣理クリニック表参道：
<http://www.eri-clinic.com>

片桐衣理 オフィシャルブログ：
www.ameblo.jp/eri-katagiri

美人製造研究所ホームページ：
www.bijin-seizo.com

加齢によるお肌の悩みには ふたつのアプローチで対処します。

加齢によるお肌の悩みで多いのが、たるみとしわです。毛穴が目立つことを気にする患者さんもいらっしゃいますが、それも実はたるみが原因なんです。それに対しクリニックが行う施術にはふたつの代表的なアプローチがあります。まずひとつは、肌の活性化を促すこと。これはピーリングやレーザーによって、あえて刺激を与えることで、肌の眠っていた再生能力を呼び起こすのです。次にたるんだ肌を膨らませる方法。これはヒアルロン酸の注入（ダイレクト）、またビタミンCなどの「グロスファクター」と呼ばれる成長因子を入れるメソセラピー（徐々に育てる）があります。

肌のお悩みに関する因果関係を熟知した医師が開発に加わるドクターズコスメは、成分選びや配合の上で合理的に良いものを取り入れられると思います。メソリフトとピーリングというエイジングケアの施術から着想を得ていますが、そんなところにも、合理性を感じます。個人的には粘度がしっかりあり、肌への密着性も高いピールマスクの使用感が新鮮で驚きました。洗い上がりはさっぱりしていて肌がなめらかなのも良いですね。

まずは日々のスキンケアありき。 患者さんにもそれは必ず伝えていきます。

施術で一時的に肌の状態を改善させることは簡単です。しかしそれでは、本当の意味で美を手に入れたことにはなりません。私は患者さんたちの肌の、自立をお手伝いするドクターでありたいと思っています。お肌の状態を長いスパンで見極め、今、どんな手当が必要なのかを探っていく。そんなパーソナルドクターを心がけています。患者さんの中には、施術さえすれば美しくなれると思っている方もいらっしゃいますが、そういう方には必ずスキンケアの重要性をお伝えしています。日々のお手入れは、美容の基盤。ここがしっかりして初めてメディカルが生きてくるのです。お手入れという基礎がしっかりしていないと、美を手に入れることはできないのです。